

## 第7回日野市生物多様性地域戦略策定委員会 議事要旨

日時：平成29年8月1日（火）18：00～20：00

場所：日野市役所 101 会議室

出席委員： 亀山委員	東京農工大学名誉教授 ※委員長
小倉委員	東京農工大学名誉教授
濱田委員	
井上委員	
森川委員	
片山委員	
篠田委員	東京農工大学
坂本委員	多摩動物公園
中西委員	樹木・環境ネットワーク協会
石黒委員	環境保全課
藤田委員	環境保全課
檜山委員	緑と清流課
岡澤委員	区画整理課
小島委員	健康課
奥野委員	学校課
清水委員	学校課
大日向委員	生涯学習課

※敬称略

## 次第

1. 開会・あいさつ
2. 報告
  - ・ 第1回庁内調整会議の報告
  - ・ 第7回市民参画部会の報告
3. 議事
  - (1) 前回委員会の議事要点確認
  - (2) 骨子案の確認・検討
    - ・ 日野市の生きもの
    - ・ 計画期間
    - ・ 取組みの体系
    - ・ 具体的な取組み
    - ・ 重点プロジェクトの検討
    - ・ 推進体制・進行管理の検討
  - (3) 今年度スケジュールの変更
4. その他

## 配付資料

- 資料1：第6回日野市生物多様性地域戦略策定委員会 議事要点
- 資料2：日野市生物多様性地域戦略（骨子案）
- 資料2-1：「具体的な取組み」の構成変更について
- 資料3：今年度スケジュールについて
- 参考資料1：第1回庁内調整会議 議事録
- 参考資料2：第7回市民参画部会 要点録
- 参考資料3：第6回日野市生物多様性地域戦略策定委員会 議事要旨

## 第 1 回庁内調整会議の報告および第 7 回市民参画部会の報告

※事務局より参考資料 1 および参考資料 2 に基づき説明。

## 前回委員会の議事要点確認

※事務局より資料 1 および参考資料 3 に基づき説明。

## 骨子案の確認・検討

◎日野市の生きもの（資料 2 : P22～36）

※事務局より資料 2 に基づき説明。

### 【森川委員】

今回の骨子案の修正とは、5 月 10 日の委員会での指摘に対する修正か。

### 【事務局】

そのとおりである。

### 【亀山委員長】

P1～36 の内容について意見を求める。

### 【中西委員】

「2.4.1 日野市全体の生物相」の内容は文献調査ということだが、表 2-3 には調査の実施主体を記載した方がよい。また、「2.4.2 生息環境区分ごとの特徴」についても、今回の地域戦略策定業務内での調査結果であることを記載した方がよい。

### 【亀山委員長】

調査方法についても記載がない。

### 【事務局】

記載する旨、承知した。

### 【中西委員】

あまり細かく書く必要はないが、調査年度と調査位置の記載は必要である。詳しいデータは巻末に載せるということなので、本文には「巻末に詳細なデータを示す」と書いた方がよい。

### 【亀山委員長】

承知した。

### 【中西委員】

現地調査は開花時期を過ぎていたため、P23 のキンランの写真は花が枯れている。図書にする際は、花が咲いた写真を掲載してほしい。必要であれば提供する。

### 【事務局】

承知した。

### 【片山委員】

表 2-2 に「重要種」という単語が出てきているが、重要種の基準を説明した方がよい。

### 【亀山委員長】

その通りである。何をもちて重要種としたかという説明を記載するように。

### 【片山委員】

P23～27 は地形ごとの生きものを説明しているが、専門用語が多く、いろんな生きものの名前が出てきている。生きものに詳しい人は分かるが、一般の人にはわかりにくい内容なのではないか。わかりにくい専門用語は、P23 の「耐陰性」などが挙げられる。

【亀山委員長】

何度も出てくる単語であれば巻末に用語解説が必要である。あまり出てこないのであれば「耐陰性（暗い環境に耐える性質）」などと書くように。

【森川委員】

5月10日付の骨子案と今回の骨子案を対比すると、P21 までは変わっていないが、それ以降が大きく変わっている。P23～27 は前回案には全く載っていなかった。これは前回委員会での意見を受けて変更したのか。

【事務局】

そのとおりである。

【森川委員】

文献調査は、最近の文献が載っていないように思う。最近の文献を追加すれば、確認種や重要種が増えるのではないか。

【亀山委員長】

最近の文献とはどのようなものがあるか。

【森川委員】

例えば植物であれば、「次世代へ残したい日野市重要自然地域の植物相」が日野の自然を守る会の植物研究グループから 2016 年 10 月に発行されている。また、「日野市昆虫誌」というものもあり、これは日野市の環境情報センターの年報に載っている。

【事務局】

文献調査の内容は、初年度の委員会で報告した収集資料に基づいている。

【森川委員】

それ以降の情報は反映されていないのか。

【事務局】

そのとおりである。

【森川委員】

地域戦略がひとつの冊子として外に出るものであれば、最新情報を入れた方がよいのではないか。

【事務局】

そのとおりである。

【亀山委員長】

そういった情報は提供していただきたい。

【森川委員】

P23～27 の文章についても、もっと中身の濃いものを書いてもらいたい。例えば、P24～25 でいくつか昆虫の種名が出てきているが、それ以外に貴重な種類もあるので追加してもらいた

い。このような情報は、詳しい人と意見交換をする場を作った方がよい。漏れている希少種があり、逆につまらないものが載っている。

【亀山委員長】

これは希少種を書いたものではなく、日野市の生きものの概要を書いたものである。

【森川委員】

そこには重要種の情報は含まないのか。

【亀山委員長】

どのような姿勢で書くかによる。

【森川委員】

内容がさらっと流しすぎている感じがする。これを読んでも何を訴えているのか分からない。

【中西委員】

丘陵や崖線などの場所に特徴的な重要種と特定外来生物などが書かれている。環境と生きものの対比、その場所の特徴を表す代表的なものを書いている。

【亀山委員長】

そのとおりである。書こうと思えば文章はいくらでも書けるが、骨子案ではそれぞれの環境に特徴的な生きものを書いている。

【森川委員】

P24の丘陵・崖線斜面の説明に「アカシジミ、ウラナミアカシジミ、コシロシタバ」とあるが、同じ段落に「コシロシタバ」が再度出ている。これは2度載せる必要はなく、他の種名を載せた方がよい。

【亀山委員長】

植物誌・動物誌を作るわけではないから、環境に特徴的なものを載せる程度である。指摘事項はメモをいただき後日対応したい。

【森川委員】

P25は余白がある。訴えたいことは目いっぱい書かないと意味がない。専門家に意見を聞くなどして、なるべく内容の濃いものを作ってもらいたい。

【亀山委員長】

そのための委員会であるので、意見をいただきたい。

【井上委員】

自分は市内で500種類の生きものを撮影している。例えば、P24の丘陵・崖線斜面には、ヒミズ、ニホンアカガエル、ヤマアカガエルも生息しており、産卵できる水たまりもある。河川だとカジカガエルやシュレーゲルアオガエルといった生息場所が限られるものがあり、そういった種は調査では出てこないため、気になっている。

【亀山委員長】

気になるところはメモをいただきたい。事務局ですべての種を把握することは困難である。

【森川委員】

そうであると思うので、ある程度知識のある人と話し合う場をつくり、最終的な文章を作ってほしい。

**【亀山委員長】**

知識を持つ人がいる場はこの委員会である。

**【中西委員】**

文献で調べたものは種名しか書いていないので、例えばここならカジカガエルが多いなど、特徴的な情報はいつも見ている人に確認してもらうのがよい。また、文章中にたくさん種名はいらないと思う。森川委員と違う意見であるが、これを読むのは市民である。写真などがたくさん掲載されているならまだしも、種名の羅列では読むのが嫌になるのではないか。

**【森川委員】**

これは市民が読む資料なのか。

**【亀山委員長】**

そのとおりである。

**【森川委員】**

それならそれでもいい。現在の日野市にこういう生きものがあるという情報を盛り込むための資料として載せると思った。最終的にそういう資料もつけるのか。

**【中西委員】**

細かい資料は巻末に別資料としてつける。

**【亀山委員長】**

最終的には地域戦略に追加するというのでよいか。

**【事務局】**

そのとおりである。

**【中西委員】**

なるべく写真をたくさん増やした方がよい。

**【片山委員】**

1ページにつき1地形くらいで、写真を多用するのがよい。例えば、丘陵だけで1ページを生きものの紹介に使って、写真もちりばめて一般の人にも分かりやすくするのはどうか。いろんな生きものを羅列するよりは、特徴的なものや象徴的なもののみを掲載し、一般の方にも分かりやすくできたらよい。

**【亀山委員長】**

一応そういうつもりで作っている。

**【片山委員】**

P26の水生生物の内容は、いろいろな生き物の名前が出てくるので一般の方には分かりにくい。

**【亀山委員長】**

知名度の低いものは不要か。例えば、「ミズミミズ科」など。

**【井上委員】**

この委員会が終わるくらいの頃に、日野市動植物大全のような日野の生きものの写真集ができれば分かりやすい。そういったものが別冊であれば分かりやすい。

**【亀山委員長】**

予算がかかることであるので、別途検討が必要である。P23～27については後日意見をいただければ修正する。

◎計画期間、取組みの体系、具体的な取組み（資料2：P37～67）

※事務局より資料2および資料2-1に基づき説明。

【亀山委員長】

P37以降の基本的事項についてはこれでよいか。前回いただいた意見に基づいて修正している。P41～67の取組みの内容について、P41では目標（案）に対して取組みの方向（案）が一つにまとめられた。

【事務局（小笠部長）】

事務局からの意見で申し訳ないが、P38～39に参考として愛知目標が載っているが、愛知目標が何かを知らない人が多く、ここに載せる必要があるのか。

【亀山委員長】

愛知目標は生物多様性の取組みの基本となるので、外さない方がいい。

【事務局】

愛知目標達成のために地域戦略をつくることになっている。

【亀山委員長】

愛知目標の用語解説をつけるように。

【森川委員】

P41の「ちょう」はひらがなでは分かりにくいので、カタカナか漢字がよい。

【亀山委員長】

そのとおりである。

P42以降の具体的な取組みについての意見はどうか。

【事務局（小笠部長）】

重点プロジェクトがない目標があるので、何か入れてほしい。

【亀山委員長】

入れるようにする。

◎重点プロジェクトの検討（資料2：P68～71）

※事務局より資料2に基づき説明。

【亀山委員長】

P41の体系図に重点プロジェクトが出てくるが、重点プロジェクトの説明はその後のP68にあるため、構成上おかしい。ページ構成は再検討するように。

【事務局】

承知した。

【亀山委員長】

重点プロジェクトは目標に対して1つずつではなかったか。

【事務局】

現状、1つずつでは検討していない。

【亀山委員長】

了解した。重点プロジェクト「(8) 日野市の侵略的外来生物の選定」とあるが、「侵略的外来生物」とは何か。日野市に固有なものを選びたいのか。

【事務局】

日野市で問題となっていることが明らかになっているものを対象と考えている。例えば、以前から委員会で話題になっている河川敷のシナダレスズメガヤなどである。

【亀山委員長】

特定外来生物は基本的に問題になっているものである。

【事務局】

特定外来生物以外でも、問題になっているものを挙げていくつもりで書いている。まだ案の段階なのでご意見をいただきたい。

【亀山委員長】

その旨、きちんと書く必要がある。

【事務局】

短期目標は緊急に行動を起こさなくてはいけないので、まず何に対して行動を起こすべきかというリストを作りたい。本当はもう少し踏み込んだ対策をしたいという思いはある。

【亀山委員長】

もう少し丁寧に書き込むように。

【事務局】

承知した。

【井上委員】

この議事については、別途意見をメールするというだけでもよいか。

【亀山委員長】

メールでも構わない。

【井上委員】

用水にはノゴイ（コイ野生型）ではなく養殖ゴイ（コイ飼育型）がおり、他の魚の卵を食べてしまうため、養殖ゴイしか生息していない用水になることが最近増えている。その養殖ゴイは外来種としてよいのか。

【亀山委員長】

そのような意見があれば構わない。ノゴイとは何か。

【井上委員】

日本にいた在来のコイである。腹が平らで細長いもので、形態も遺伝子も養殖ゴイと違う。現在よく見られる太ったコイは養殖ゴイで、中国由来である。在来の魚から卵まで食べてしまって、それらがいなくなってしまうという被害がある。ノゴイにはそのような被害はなく、水深の深いところにおり、用心深く出てこない。浅いところで目につくのはほとんど養殖ゴイで、世界の侵略的外来種のワースト 100 に指定されている。

【亀山委員長】

ノゴイと養殖ゴイは明確に区別できるのか。

【井上委員】

琵琶湖でヘルペスによってコイが大量死した時に、遺伝子検査で違いがあると確認され、ノゴイの生息が確認された。200年前の地層からも出てきている。

【森川委員】

日野市の鳥や花や木はあるが、昆虫や魚はないから決めるように以前から何度も言っている。一向に取り上げられないが、どうなのか。

【亀山委員長】

入れてもいいのではないか。

【森川委員】

他の行政も市の虫や魚の指定までやっていないから、日野市で取り上げれば注目を浴びると思う。そのことを今まで日野の自然を守る会の会報で書いている。せつかく50年後の日野の自然を子供たちに残すのであれば、ひとつの象徴として守っていくとして決めれば見方が変わってくると思うので、考えていただきたい。

【亀山委員長】

検討するように。

【井上委員】

目標6の「日野らしい生物多様性が守られている」の施策が3つあるが、多摩川の清流化についても追加してほしい。先日多摩川に行ったら、水深が50~60cmくらいで川底も見えない。八王子水再生センターと昭島からの排水が原因で水草がたくさん生えており、アユの生息を考えると非常に環境が悪い。江戸時代から日野のアユは有名だったが、石に珪藻もつかないような状況では子どもも泳げない。浅川の方がよっぽどきれいである。

【事務局】

水再生センターから出てくる処理水の話である。

【井上委員】

現に水生昆虫はいない。排水処理能力を上げればきれいな排水になると思う。浅川はかつて汚かったが、現在はきれいになった。多摩川も多摩大橋から下流の部分は、浅川と同じようにきれいな川底が見える川にしたい。魚や川の中に興味のある人はあまりいないようなので、話題として取り上げられなかったが、あそこではアユが育たないし、獲れても臭くて食べられない。

【亀山委員長】

それは目標7の施策ではないか。

【事務局】

承知した。日野市だけで解決する問題ではないが、そこはまず「国や都と積極的に協議する」という書き方にして、長期的に目指すとした方がよい。

【井上委員】

個人が言っても国は受け付けてくれないが、大事なことだと思う。

【森川委員】

日野の昆虫を選定するためには、裏付けが必要になる。そういうものを決めてもらいたい。

【亀山委員長】

決めることが大事であるということは書いておくことにする。その先の議論はこの場では無理である。

【事務局（小笠部長）】

P69～71 に市民部会でのワークショップの写真があるが、貼ってある付箋に何が書いてあるのか分からないので、イメージ図や別の写真を入れる方がよい。重点プロジェクト「(6) 民有緑地の公有化による東豊田緑地保全地区の拡張」については賛成であるが、単に「民有緑地の公有化」として、東豊田緑地保全地域の拡張やその他の公有地化も範疇とする形がよい。

【事務局】

その方が意欲的でよい。

【事務局（小笠部長）】

重点プロジェクト「(7) ちょうの集まるまちづくり」についても、チョウに特化しすぎているので、チョウや多くの昆虫が集まるなどとし、もう少し対象を広げた方がよいのではないかと。

【森川委員】

自分が提案した内容である。チョウに特化したのは、チョウが集まる花なり、食べる食草を植えることによって自然に外からチョウが集まってきて、そこでチョウが飛ぶ姿を子供たちが常時観察できるという公園を作ってはどうかということである。もちろんカブトムシでもいいが、チョウは簡単にできることであるので提案した。多摩動物公園には温室もあり、専門家もいるので、意見をいただきながらできると思う。

【亀山委員長】

特定の公園でこのようなことをすると、歪んだ自然を見せることになるのではないかと。

【中西委員】

これは啓発として人々の関心を呼ぶという意味の方が強いので、基本方針の「人々の関心を高める」に入れてはどうか。目標 7 は、日野市として人為的な影響のない本来のポテンシャルを創出しようという意味の施策である。

【事務局】

そのとおりである。

【亀山委員長】

検討するように。

【中西委員】

基本方針の「人と自然の関わりをつくる」の中で、緊急かつ重要な問題として、雑木林の手入れなど、市民と自然との関わりが少なくなっている問題がある。環境基本計画の重点プロジェクトにも維持管理の人員を増やす内容が入っているが、この問題は重点プロジェクトとして緊急性が高い。そのため、管理する人材を育成する、管理を実施するという重点プロジェクトが入っていた方がよい。

【亀山委員長】

重点プロジェクトに「(2) 自然にふれあう原体験の推進」とあるが、これが該当するのではないかと。

【中西委員】

これは体験に関するものである。目標4の重点プロジェクトは市民部会で調査マニュアルの作成という意見が出たので「(5) 市民のできる生きものの調査マニュアルの作成」が入っているが、目標4の重点プロジェクトは、管理する人材の育成、仕組みづくり、団体組織などの方が緊急性が高い。

【亀山委員長】

具体的な修正内容を提案してほしい。

【中西委員】

せっかく市民部会で出したマニュアル作成をやめるという提案はできない。目標4の重点プロジェクトに追加してはどうか。目標4の施策では、「市民の維持管理活動により生物多様性の保全」とある。これに対応するのが、例えば雑木林の管理であるとか、人が関わることによって生物多様性が維持するというアクションである。

【亀山委員長】

目標4に追加すればよいのか。

【事務局】

増やすことは問題ない。

【中西委員】

目標8に対して重点プロジェクトが「日野市の侵略的外来生物の選定」とあるが、対策まで書いてよいのではないか。

【亀山委員長】

そのとおりである。

【中西委員】

今までの委員会で、シナダレスズメガヤなど種名が上がってきている。選定はすぐできるので、対策までプロジェクトとして入れた方がよい。

【亀山委員長】

重点プロジェクトは2020年までにやることだから、「選定」としているのか。

【事務局】

そのつもりである。

【亀山委員長】

対策も検討するように。

【事務局（小笠部長）】

「(8) ちょうの集まるまちづくり」を、基本方針「人々の関心を高める」に移動させると、目標7の重点プロジェクトがなくなるので、井上委員が言った多摩川の清流化などを入れたらよい。

【亀山委員長】

検討するように。

【事務局】

承知した。再構成する。

【篠田委員】

この場所にしかない生きものや、絶滅しかけている生きものがいるはずなので、そういったことを、2020年を待たずに対策することも必要ではないか。

【中西委員】

重要種に対する内容が抜けている。貴重な自然に対するアクションがない。

【井上委員】

多摩丘陵でヤマアカガエルが毎年産卵する池があり、それを守らなければヤマアカガエルを保全できない。現実には宅地化でこのような環境がなくなりつつあり、それらの対策が骨子案にはない。シュレーゲルアオガエルも日野市では生息している場所が限られており、そこも無くなってしまいかもしれない。

【濱田委員】

具体的に場所を公開すると盗られてしまうこともある。

【井上委員】

少なくとも多摩川は国土交通省の京浜河川事務所の管轄であるため、保全に関する内容は地域戦略に記載しておいて、工事をする時は河川事務所に保全するように言えばよい。

【濱田委員】

ヤマアカガエルの生息地は丘陵地であり、だいたいが民有地である。

【井上委員】

難しい部分はあるが、人間の都合ではなく、生きものの都合で物事を考えるという発想にしていかなくては、ヨーロッパの豊かさのようなものは生まれない。

【亀山委員長】

重要種に関する取組みはどこかに入れるように。

【事務局】

取組みの内容には重要種を入れているが、重点プロジェクトは喫緊で予算をつけて実行しなくてはいけないものであるから、調整が必要であるということもご理解いただきたい。

【森川委員】

当初、現地調査を7か所で行ったが、その地域を選んだということはそこを今後も残していくという意図で選んだということではないのか。そうであるならば、そこをどうやって残していくかについて記載する必要がある。多摩川についても、あれだけの自然が残っているのは日野市ではあそこしかない。その多摩川の管理を国土交通省だけに任せていいのか、という気持ちもある。日野市でもある程度関わっていかなければいけない。

【亀山委員長】

そういう場所は他にもたくさんあり、なんとかしたいという思いはある。

【中西委員】

先ほどの外来種と同じで、今回は現地調査をしてデータもあるので、調査をした人と日野市の生きものをよく知る人で具体的な場所と生物種のリストアップはできると思う。具体的な種名は入れなくても、やるということは重点プロジェクトにしてもいいのではないか。

【森川委員】

日野市の特別保護区を指定するなど。

【中西委員】

日野市のレッドデータブックみたいなものなど。

【亀山委員長】

重要種に関する重点プロジェクトは次回までに検討する。

◎推進体制・進行管理の検討（骨子案：P72～73）

※事務局より資料2に基づき説明。

【中西委員】

日野市生物多様性プロジェクトチームの事務局はどこになるのか。

【事務局】

環境保全課である。

【亀山委員長】

こういった時に開催されるのか。何をやるのか。

【事務局】

具体的にいつ、何を、ということは決めていないので、意見をいただきたい。年に2回なのか、3回なのか、四半期に1回なのか。半年に1度は開きたいと思う。

【森川委員】

市民活動団体は具体的にこういった団体を想定しているのか。

【亀山委員長】

日野の自然を守る会などである。

【事務局】

その他もあり得る。

【森川委員】

いつごろから体制ができるのか。

【事務局】

地域戦略策定後になるので、来年度になる。

【亀山委員長】

推進はどのように進めるのか。関係者がプロジェクトチームで集まり、推進体制をチェックするのか、何をするのか。

【事務局】

今動いている行動計画について、実行状況を説明し、それに対して意見を頂戴する。

【森川委員】

重点プロジェクトに対して、プロジェクトチームで何をやっていくかを話し合うのか。

【事務局】

そのとおりである。

【中西委員】

環境基本計画でも同じような体制でやっている。推進会議を作っており、年に2回報告して、

市民と一緒にやっている。地域戦略でも進行管理を行うとなると、市は仕事が増えて大変ではないか。環境基本計画とは別の組織ができ、7つの目標があるものを、どのくらいの頻度で、どこからやっていくかがイメージできない。例えば、なるべく既存の環境基本計画の仕組みと足並みをそろえることや、重点プロジェクトだけに最初の数年は取組みを絞るなど、実現可能な推進体制にしなければ、地域戦略は書いただけで終わる可能性があるので心配である。

**【事務局】**

そこは要である。絵に描いた餅にならないためには、推進体制がいかに有効に機能し、施策を推進するかが重要になる。できる範囲がどこまでかを見極めることも重要だが、逆に今までの会議体ではできなかった野心的な試みも生物多様性の観点からやるべきだということであれば、意見をいただきながら市がきちんと施策を推進していけるように外からマネジメントすることが大事である。そのやり方をどうするか、体制をどうするかを含めてここでは意見をいただきたい。

**【井上委員】**

一番気になるのは、いつ、誰が、どこで、何を、どうするのか、という部分である。市民やグループも、サラリーマンや定年退職者で構成されているので、そこが気になる。

**【森川委員】**

事業者は日野市役所になるのか。

**【事務局】**

日野市の中の企業、日野市の中で事業活動をしている主体である。

**【森川委員】**

そういう人たちが新しく加わると、今までのことを全部説明しなければいけない。それを理解してもらえるかどうか心配である。またいろいろと意見が出るのではないかと。

**【事務局】**

そのあたりも意見をいただきたい。今は案の状態なので、どのような体制が好ましいかはまだまだ検討していくところである。中西委員が言ったように、市の各課でも他の計画が進んでいるので、その整合性を取りながら進めなければならない。重点プロジェクトは2020年を目標にして、より具体的に達成できるところまで進めるためには予算確保が必要である。そのような中で、重点プロジェクトを乱立させると実現性が低くなることもある。そういったことも含めて重点プロジェクトのハードルの高さや、数についても意見をいただきたい。

**【小倉委員】**

予算の確保は非常に大事な部分である。予算がある程度確保されないと推進もできない。その努力がかなり重要になる。

**【中西委員】**

たくさんある施策を見てみると、既存の施策に合わせられるものや、協力をお願いするなどのちょっとした工夫で実現できることはたくさんある。既存の施策を少し拡張するような形で進めていく方が現実的であり、実行力があるものになる。うまく関連性を見出して既存の施策と合わせるといったやり方がよい。

**【事務局】**

全くゼロから始まるものは、それほど多くないと思っている。

**【中西委員】**

既存の取組みを行っている団体に関わってもらって、その延長上でできるように工夫するのがよい。

**【事務局】**

そのとおりである。庁内調整会議を行っているのは、生物多様性という言葉は使っていないが、似たような取組みを行っている施策や計画の交通整理をしている。そのため、一度持ち帰って関連した施策を挙げてもらったり、一緒にやれるものは合わせたりという作業をしており、この後も若干組み直しは出てくると思われる。できる限りバラバラではなく、効率化を進めていけるような施策の体系を目指したい。

**【亀山委員長】**

プロジェクトチームのつくり方を考える必要はある。いただいた意見を骨子案に反映するように。

**今年度スケジュールについて**

※事務局より資料3に基づき説明。

**その他**

**【事務局】**

第8回委員会は9月12日(火)、18時から日野市役所の505会議室で開催する。

第8回市民参画部会は8月31日(木)、18時から日野市役所の504会議室で開催する。

**【中西委員】**

シンポジウムが来年3月開催であるが、会場の手配はどうなっているのか。こういうものは今くらいから準備をするもので、11月からでは遅い。

**【亀山委員長】**

準備を遅くに始めると大変なので、早めに始めるように。